

# 専門医のリモート参加と遠隔診療、 多職種カンファレンスを組み合わせた 発達障害に対する地域連携診療モデル

松井 友紀子 ●まついこころのクリニック



## 1. 背景と目的

昨今、発達障害への支援の必要性が叫ばれて久しい。精神科分野における難治例にも発達障害の背景を持つ患者が存在し、その重要性が注目されている。

地域生活が困難な患者に対しては、医療・行政・福祉関係者の協働が必要である。特に生活に寄り添う訪問型支援は有効であり、兵庫県加西市では「加西市基幹相談支援センターやすらぎ(以下、やすらぎ)」が一役を担っている。

本来、すべての支援者は発達障害に関する知識や経験を有してその対応に当たることが理想的だが、現実には全国的に専門家が不足しており、専門機関は一部の患者対応でパンク状態である。このため実際の対応は地域の支援者が独自に担わざるを得ず、本来であれば早期適切介入で改善が望めるケースが、より難治化している可能性がある。一方、そうした専門性を獲得するためには、各都道府県の基幹病院・施設で研修する必要があり、結果として発達障害に高い診療意欲を持つ医療関係者は、若手・ベテラン問わず都市部に偏在している。また近年、厚生労働省の施策として「発達障害者支援地域協議会」が開催されているが、

その主導は都道府県・政令指定都市である。こうした背景から発達障害に関する専門性が地域に及び難い実情がある。

## 2. 取り組みの方法

地域生活が困難なためにやすらぎが介入中で、医療機関で発達障害と診断されている、または疑われる10~20代のうち、本活動に同意いただける方を対象とする。遠隔の人口密集地である西宮市に位置し、同市の発達障害診療ネットワーク専門診療医療機関に名を連ねる「まついこころのクリニック(以下、クリニック)」所属の発達障害専門家を目指す医師(以下、リモート医)が、やすらぎの支援と並行し定期的にリモート診療を行う。やすらぎ、クリニック院長(子どものこころ専門医)、リモート医を「患者支援チーム」として合同Web会議を3か月に一度実施し、課題の抽出と評価、支援計画の共有を行う。クリニック院長は専門医の視点からの助言を行う。

## 3. 期待される成果

専門医不在の地方に居住する患者に対して、質の高い医療や包括的ケアを提供することが第一の意義である。また関係者のスキルアップと同時に、専門家が不在であるがゆえの支援者の不安も解消する。地域と遠隔地の専門医との関係性が構築された場合、専門家に求められる他の活動への発展や、助言を受けたWeb会議参加者らが地域の発達障害対応の中心を担うことが期待される。